

企業情報

基本情報 (2018年3月31日現在)

- 会社名 (商号): 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ (略称 NTTデータ)
- 本社: 〒135-6033 東京都江東区豊洲三丁目3番3号
- Tel: 03-5546-8202 (代表)
- 設立年月日: 1988年5月23日
- 資本金: 142,520百万円
- 事業年度: 4月1日から翌年3月31日まで
- 会計監査法人: 有限責任 あずさ監査法人

世界最大規模の情報通信企業 [NTTグループ]

NTTグループ

総資産	売上高
21兆6,758 億円	11兆7,996 億円
従業員数	連結子会社
282,533人 (連結)	922 社

NTTデータグループ

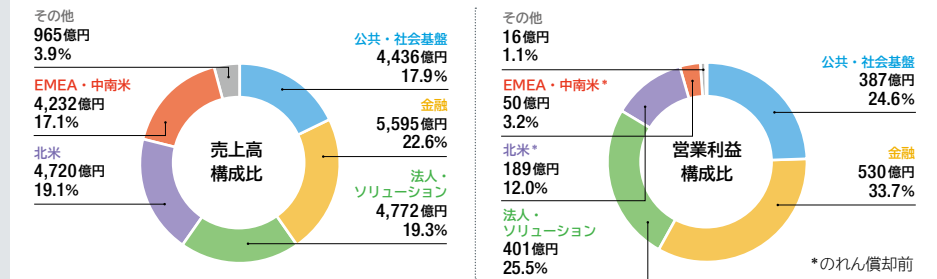
総資産	売上高
2兆2,342 億円	2兆1,171 億円
従業員数	連結子会社
118,006人 (連結)	303 社

B to B
ITサービス

事業領域

NTTデータグループは、日本最大の専門ITサービスベンダとして、幅広い事業領域で付加価値の高いITサービスを提供しています。

事業の多様化を推進するビジネスポートフォリオ (2017年度)



分野	主な事業領域	売上高	営業利益
公共・社会基盤分野	日本を中心に、行政、医療、通信、電力等の社会インフラや地域の活性化を担う、高付加価値なITサービスを提供	4,436 億円	387 億円
金融分野	幅広い金融機関の事業活動を支える高品質なITインフラと、それらをつなぐ高付加価値なITサービスを提供	5,595 億円	530 億円
法人・ソリューション分野	製造業、流通業、サービス業等の事業活動を支える高付加価値なITサービスおよびITサービスと連携するペイメントサービスやプラットフォームソリューションを提供	4,772 億円	401 億円
北米分野	北米を中心に、高付加価値なITサービスを提供	4,720 億円	189 億円 (のれん償却前)
EMEA・中南米分野	EMEA・中南米を中心に、高付加価値なITサービスを提供	4,232 億円	50 億円 (のれん償却前)

拡大を続ける事業領域

お客様とのリレーションと技術を基盤に、事業領域を拡大しています。



官公庁・自治体

クラウドで、ビッグデータで、地域社会を支える。



製造業

製造プロセスシステムに、さらなる効率化を。



ヘルスケア・ライフサイエンス

データベースを、医療の力に。



自動車産業

テクノロジーで、システムで、自動車産業を前へ。



銀行・金融

金融サービスを、信頼度の高いシステムで進化させる。



エレクトロニクス・ハイテク

開発・製造・管理の最適化をアシストする。



保険

専門技術と創造力で、保険運用システムを進化させる。



運輸、物流

組織とプロセスの改善を支え、運輸と物流を進化させる。



通信

通信で、新たなチャンス・顧客との関係を、創り出す。



卸売業

経営環境に即したサービスで、卸売の進化を支える。



メディア・エンタテインメント

ITソリューションで、メディアの新ビジネスを切り拓く。



小売業

効率化とともに、ネットを活用した売上拡大を支援する。



教育

ITで、教育の新しいカタチをつくる。



サービスプロバイダー

変化が早いサービス業の、次のチャンスを逃がさない。



エネルギー・公益事業

競争力をキープしながら、挑戦できる環境を提供する。



基盤技術

クラウドで、データをもっと使えるリソースに変える。



天然資源

サプライチェーンのノウハウで、次のチャレンジの原動力になる。

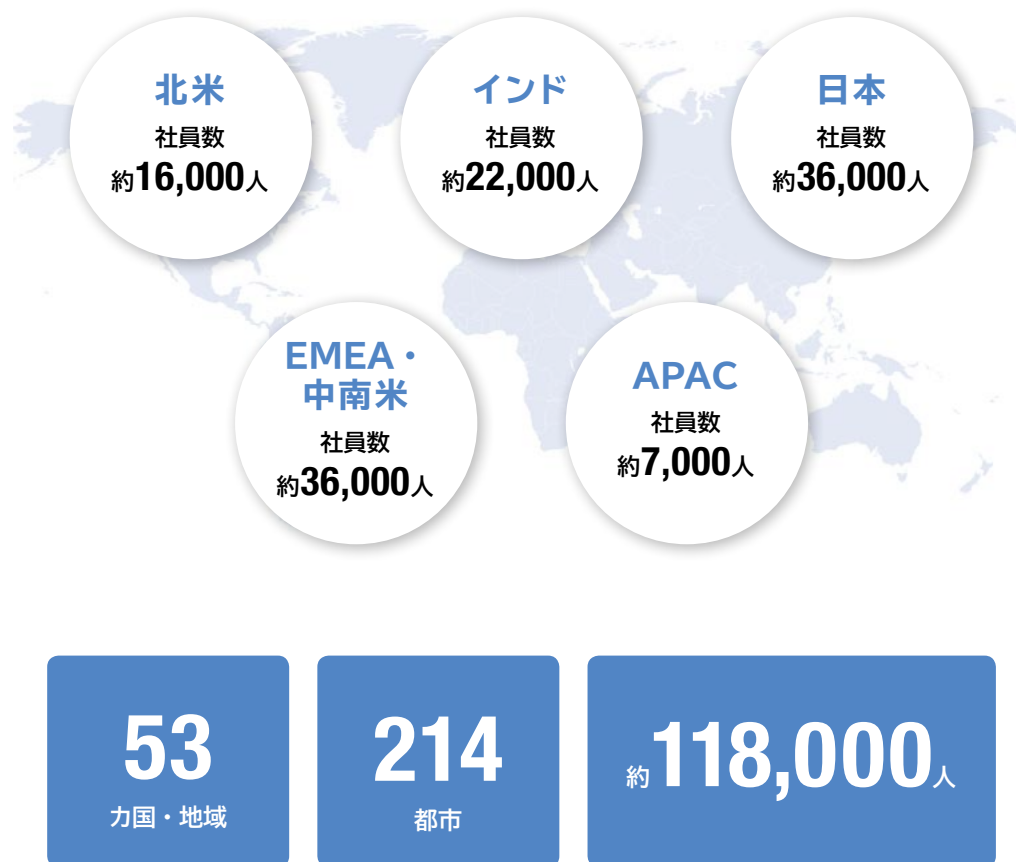


コンシューマー製品

オンラインで、モバイルで、製品開発を支える。

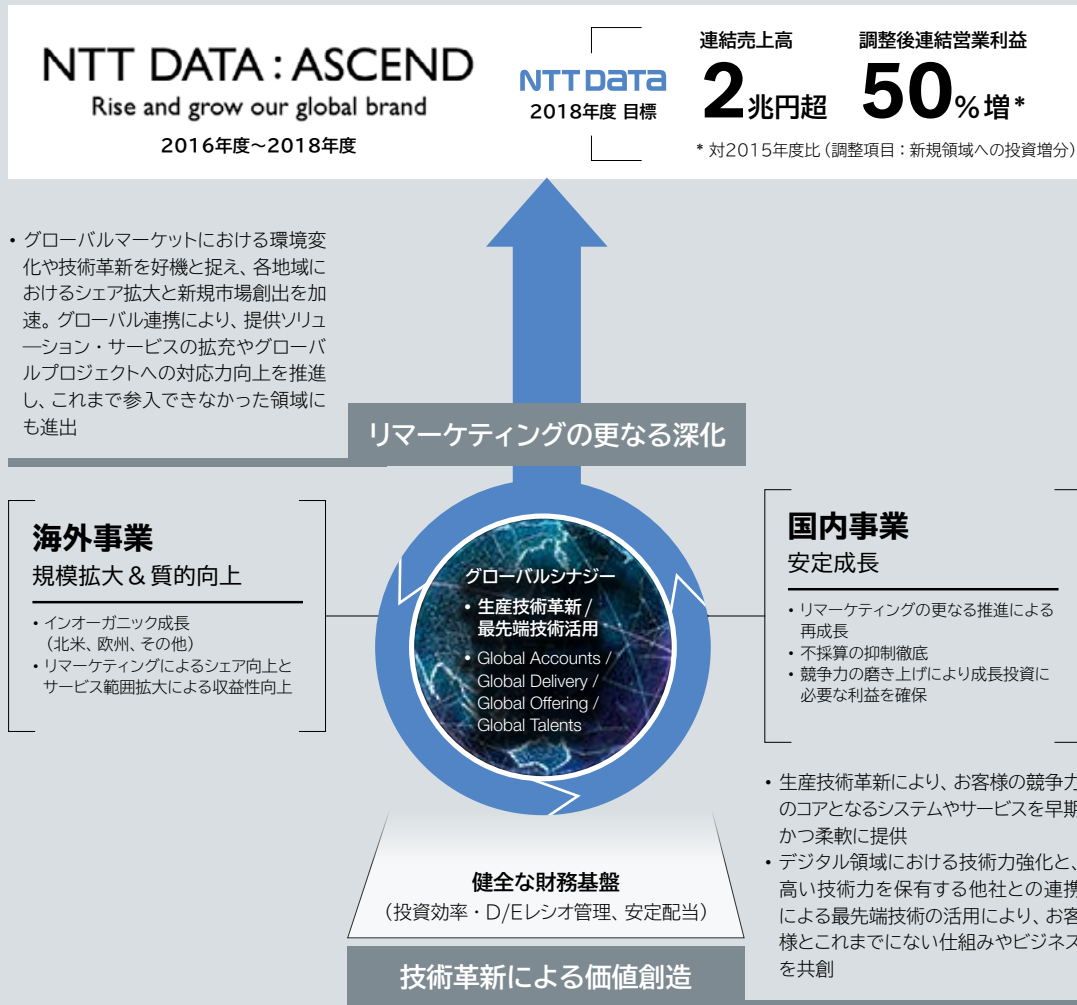
地理的カバレッジの拡大 (2018年3月31日現在)

NTTデータグループ全体で約118,000人体制を確立し、世界53カ国・地域、214都市へと地理的カバレッジを拡大しています。



中期経営計画の概要

■ 中期経営計画「NTT DATA : ASCEND」の概要と進捗

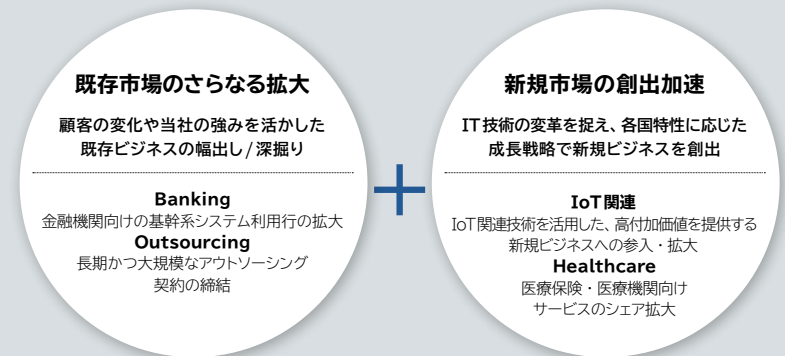


リマーケティングの更なる深化

リマーケティングの取り組みにより、さらなるマーケットの拡大を果たしました。既存市場については顧客のデジタル化に向けた取り組みの変化や当社の持つ強みを活かすことによりバンキングビジネスやアウトソーシングビジネスに代表されるビジネスを拡大しています。

新規市場についても昨今のデジタルビジネス加速の流れを踏まえ、当社の先進技術を活用した新規ビジネス創出に向けた取り組みや、パートナー企業との協業を通じたアライアンス戦略等により、新規市場でのビジネス拡大を果たしています。

既存市場でのシェア獲得や、デジタル関連ビジネスなどの成長市場への参入により、ビジネスの拡大を加速

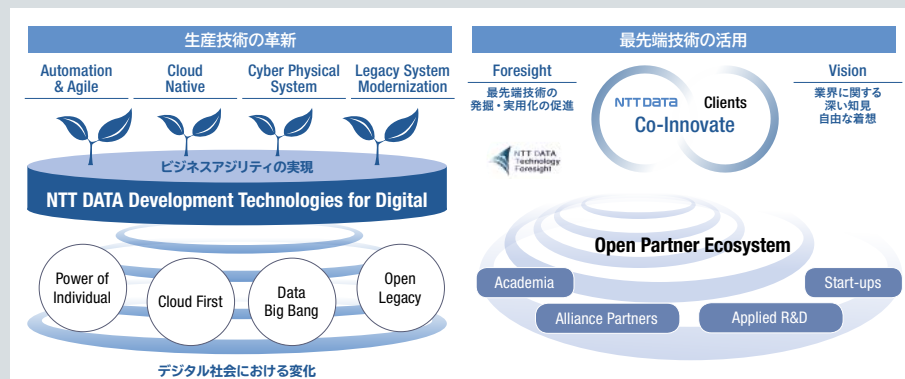


技術革新による価値創造

生産技術革新により、お客様の競争力のコアとなるシステムやサービスを早期かつ柔軟に提供
グローバルの最先端技術の活用により、お客様とこれまでにない仕組みやビジネスを共創

激しい環境変化に直面しているお客様の競争力のコアとなるシステムやサービスを早期かつ柔軟に提供できるよう、これまで開発してきた生産技術とデジタル社会に対応する新しい生産技術を組み合わせ、生産技術のさらなる革新を推進しています。

また、お客様のITの戦略的活用へのニーズの高まりに応えるため、当社グループの知見や人材、拠点等の研究開発リソースをグローバルに適正配置することにより、デジタル領域の技術力強化を行います。加えて、高い技術力を保有する他社との連携を推進することにより、常に最先端技術を取り入れていきます。これらの取り組みを通じたお客様との共創により、ビジネスへの最先端技術の適用を実現することで、これまでにない新しい仕組みや価値を創造していきます。



取り組み状況と成果

生産技術革新	統合開発クラウドの国内外への積極展開によるビジネスアジリティの向上と、コスト削減に向けて継続して取り組む	
	国内外の開発環境への適用拡大	お客様商用環境への展開
	<ul style="list-style-type: none"> 国内開発環境への適用拡大に向けた取り組みの加速・推進 中国オフショア開発環境や、欧州グループ会社での開発環境への適用開始 	<ul style="list-style-type: none"> 金融機関様向けクラウドサービスOpenCanvas等のSoE基盤としてサービス開始 欧州においても商用提供開始
最先端技術の活用	グローバルで複数のお客様やパートナー企業とCo-Innovativeな取り組みを実施し、引き続き新たな価値創造に向け取り組む	
	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>AI</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>Blockchain</p> </div> </div>	

AI

AIとは

いま最も注目されているテクノロジーのひとつに人工知能 (AI : Artificial Intelligence) があります。すでに特定領域においてAIは、人間をはるかに凌駕する卓越した能力を発揮しています。例えば医療分野では、医師に適切な治療法をアドバイスするAIが登場しており、また、金融分野では超高速に超高頻度の取引を行うアルゴリズム取引が市場の半分以上の取引を実行しているといわれます。

NTTデータグループのAI

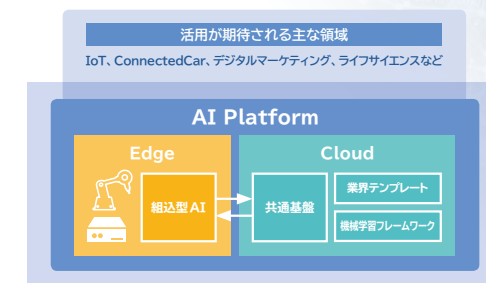
NTTデータでは、AIの重点的な適用領域として、「顧客接点領域」「業務高度化領域」「複合高度分析領域 (社会基盤領域)」を挙げて仕組みを提供しています。

顧客接点領域は、顧客対応の正確性や顧客満足度の向上を目指します。

業務高度化領域では、AIによる情報の自動収集、専門業務の効率化と判断の均一化、RPAとAIを組み合わせたオフィス業務自動化など、徹底したコスト低減、競合他社との差別化要素となる付加価値を創出します。

複合高度分析領域 (社会基盤領域) では、AIとIoTを連携させたトータルインテグレーションに対応し、現場側のコンピューター (エッジコンピューター) とクラウドを協調させてリアルタイムに分析・制御することで、予測や予兆検知、自動化などの高度な処理を実現します。

トータルインテグレーションの例



主な取り組み

- ・ ニュース原稿の自動生成 : 「AI 記者」実現の可能性を検証
- ・ Smart ICU : 重症患者の状態悪化の予兆を検知
- ・ 渋滞緩和 : 渋滞予測・信号制御シミュレーション

関連サイト

NTTデータ 公式サイト

<http://www.nttdata.com/jp/ja/services/sp/ai/index.html>

NTTデータ AI活用プロフェッショナルサービス

<http://nttdata-aistudio.com/aistudio/>

Blockchain

ブロックチェーンとは

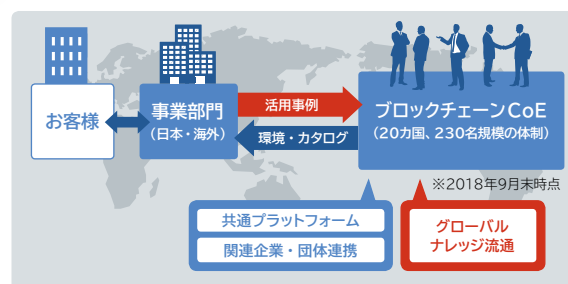
ICTや金融業界の最新トレンドのひとつで、金融ビジネスを一変させるともいわれる「FinTech（フィンテック）」があり、これに関連してオープンな金融サービスを実現する有望な技術のひとつとして注目されているのが「ブロックチェーン」です。インターネットなどオープンなネットワーク上で、高い信頼性が求められる金融取引や重要データのやりとりなどを可能にする「分散型台帳技術」がありますが、その中心となるのが「ブロックチェーン」です。

NTTデータグループのブロックチェーン

ビジネスのグローバル化やボーダレス化への期待が高まる中、NTTデータグループでは20カ国、230人以上のメンバーとともにブロックチェーンCoE（Center Of Excellence）を組成し、お客様のブロックチェーン活用に迅速に対応できる体制を構築しています。

また、お客様のニーズに合わせてブロックチェーン導入をサポートできるよう、「教育プログラム」「ブロックチェーンワークショップ」「POC（Proof Of Concept: 実証実験）/ Pilot」「ビジネスパートナーシップ連携」の4つのメニューを準備し、全世界でのブロックチェーンに関する活動を通じたノウハウをもとに、戦略検討から実用化に向けた対応まで、ワンストップで提供しています。

NTTデータグループのブロックチェーンネットワーク



主な取り組み

- ・貿易情報連携基盤：国を超えた貿易企業間における安全・迅速で効率的な情報連携を実現（日本）
- ・国際送金：国際送金アプリケーションを開発、短時間での送金を実現（英国）
- ・食品トレーサビリティ：サプライチェーン関連の規格とブロックチェーンを連携（イタリア）

関連サイト

NTTデータ 公式サイト

<http://www.nttdata.com/jp/ja/services/sp/blockchain/>

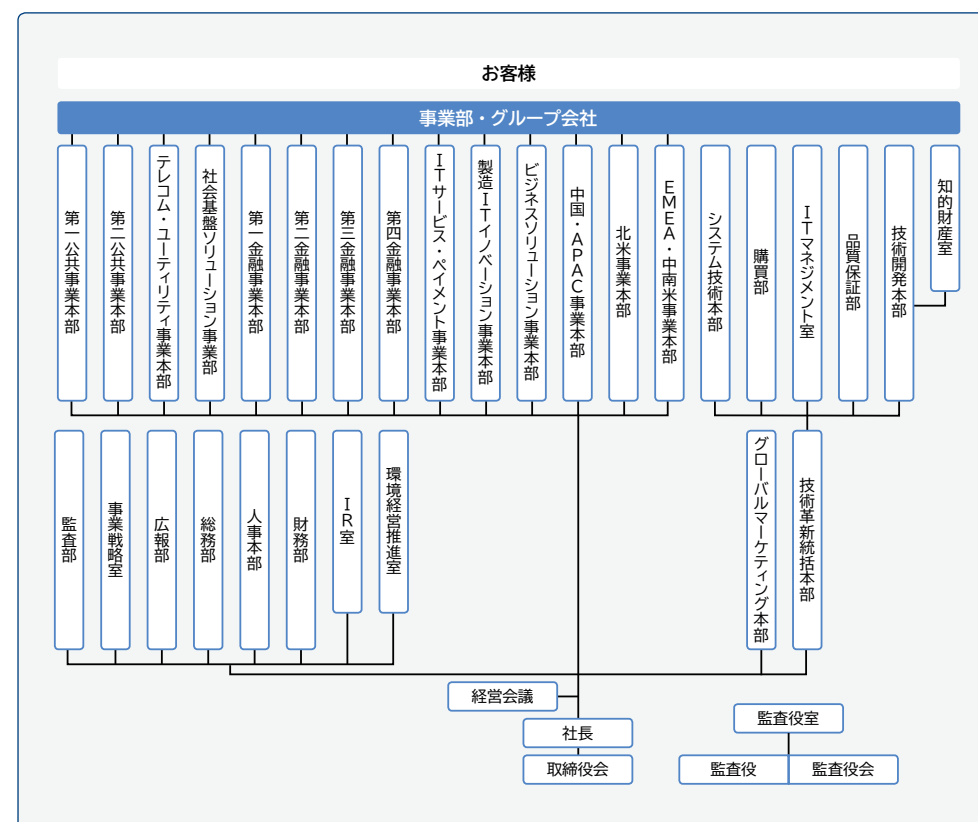
組織体制

グローバル経営のさらなる目標である、Global 3rd Stage「信頼されるブランドの浸透」を掲げ、ローカルプレゼンスの拡大、重要顧客の深耕、迅速・適切なグループ全体の事業状況の把握を行うことを目的にグローバルビジネスの推進・管理体制を強化しました。

具体的には、2017年7月1日付けで、グローバル横断機能を、本社組織として新設するグローバルマーケティング本部に移管しました。本社組織に移管することで、日本を含むNTTデータグループ全体に対し、円滑にグローバル横断機能を提供できる組織にするとともに、体制も強化し、グローバルレベルでの地域間連携をさらに推進します。

また、中国・APAC事業本部を新設し、国内の既存3分野（公共・社会基盤分野、金融分野、法人・ソリューション分野）に中国・APAC地域ビジネスを加えた4分野で連携する組織運営を行います。

組織図（2018年7月1日現在）



Our Way

現在、日本そして世界に目を向けると、企業を取り巻く環境は目まぐるしく変化を遂げています。NTTデータグループは、よりいっそうの発展のために、経営者・社員一人ひとりが自らなすべきことを考え、行動を改革し、事業そのものを変革していきます。また、NTTデータグループでは、経営における拠りどころとなる企業理念や、共有すべき価値観を「Our Way」としてまとめ、Group Visionの実現に向けてグループ一丸となって取り組んでいます。

NTTデータグループの使命	企業理念	社員信条
	NTTデータグループの使命、存在価値を示すものであり、経営における最終的な拠りどころ	社員一人ひとりが心掛けなければならない信条、行動方針
事業環境に応じた使命の実現の姿	Group Vision	Values
	NTTデータグループが10年後に目指す姿を示したもの	Group Visionの実現に向けて、大切にしている価値観

日々の活動における倫理、法令順守等の行動規範

グローバル・コンプライアンス・ポリシー

企業理念

NTTデータグループは、情報技術で、新しい「しくみ」や「価値」を創造し、より豊かで調和のとれた社会の実現に貢献する。

社員信条

- 1.わたしたちは、「お客様のため」最善を尽くします
- 2.わたしたちは、「行動」し、「挑戦」します
- 3.わたしたちは、「いきいき」とした「明るい会社」をつくります

Group Vision

2005年よりGroup Visionとして「Global IT Innovator」を掲げ、ITを事業のコアとして、世界的な舞台へ躍進してきました。

そして、2018年、私たちは、世界53カ国と地域、118,000人の従業員が働くスケールに広がりました。Global 2nd Stageで掲げた連結売上高2兆円超、海外売上高比率50%の達成も視野に入り、私たちは次なるステージへと向かおうとしています。

ITの技術革新は目覚しく、ビジネスモデルの変化も急加速しているこの予測困難な時代において、私たちの目指すべき姿は、自社のみの利益を追求するのではなく、どこまでもお客様に寄り添い、お客様の豊富なアイデアと私たちが強みを発揮する世界中の最先端テクノロジーとを結び付け、ビジネスイノベーションや社会課題の解決とともに実現することでお客様から長期的に信頼されるパートナーとなることです。

そして、2018年5月に創立30周年を迎えたのを機に、新たなGroup Vision「Trusted Global Innovator」を掲げました。

「Trusted Global Innovator」。ビジネスパートナーとして世界中のお客さまから「信頼」を得ることでグローバル市場で大きな存在感を発揮していきます。

Trusted Global Innovator

We realize the dreams of our clients around the world through long-term relationships.

私たちはお客様との間に「ロングターム・リレーションシップ～長期にわたる揺るぎない関係性」を築き上げ、お客様の夢や望みを実現します。

We develop evolving ecosystems with our clients through leading-edge technologies.

私たちは先端技術を進化させ、様々な企業・サービスが集結する「エコシステム」を創りあげることで、サービスの付加価値をさらに高めていきます。

We enhance our creativity by respecting diversity.

私たちは、働く一人ひとりの多様性を尊重することによって、グローバルに通用する創造力を培い、刺激し、さらに成長させていきます。

Values

Valuesとは、Group Visionの実現に向けて私たちが大切にする価値観を表現したものです。10年後の在りたい姿を目指し、一丸となって企業変革を実現するためには、私たちが大切にする価値観を明確にし、共有することが重要になります。

Clients First

私たちはお客様を第一に考えます。

お客様の満足を追求し、お客様の成功のために、最後まで責任を持ってやり抜くことが、私たちの基本精神であり行動規範です。

Foresight

私たちは、現状に満足することなく、スピード感と先見性を持って行動します。

お客様のビジネスとITの将来を考え、先見性をたえず磨くことで、お客様と一緒に夢を実現し、その先にある新しい社会を生み出すことをめざします。

Teamwork

私たちは仲間とともに達成する「自己実現」を大切にします。

多様な個性や考え方をを持ったメンバーがチームを組み、ひとつの目的に向かって知恵を出しあい、協力しあいながら取り組む仕事は、個人ではなしえない大きな成果を生み出します。

グローバル・コンプライアンス・ポリシー

NTTデータグループ全体で共有すべき日々の活動における倫理、法令遵守等の行動規範は、「グローバル・コンプライアンス・ポリシー」として規定されています。

■ 前文

企業が持続的に発展していくためには、お客様、株主、取引先、社会等から信頼されることが不可欠です。企業は、自らの社会的責任を自覚し、お客様をはじめとしたステークホルダーとの対話を通じて、その期待に応え、満足度を高めていくことによってはじめて信頼を得ることができます。

NTTデータグループとしても、自国内外において、法令・契約を遵守することはもとより、人権を含む各種の国際規範を尊重し社会的良識に基づく行動を実践し、公正透明な事業活動を行うことによって、社会からの信頼を得ることが基本であると考えます。

さらに、NTTデータグループは、情報技術で新しい「しくみ」や「価値」を創造し、より豊かで調和のとれた社会を実現する社会的使命を担う企業グループであり、地球と社会が直面する課題解決に貢献することを目指します。

これらを踏まえ、NTTデータグループの一人ひとりは、本グローバル・コンプライアンス・ポリシーに基づき行動し、信頼される企業グループを目指して最善を尽くします。

■ 適用範囲

NTTデータグループの役員、社員及び協働者は、本グローバル・コンプライアンス・ポリシーを十分に理解し、以下のとおり行動する。また、役員は、率先垂範するとともに社員の高度な倫理観の涵養に努める。

■ 原則

- ・事業を行うあらゆる国の法令や国際取引法を遵守するとともに、社会的良識に基づき行動する。
- ・企業の社会的責任を自覚し、公正透明な事業活動を行う。

■ お客様に対して

- ・お客様と適切な契約を結びこれを遵守することにより、システムやサービスを提供する。
- ・お客様の情報について、関連する法令や契約に基づく管理を徹底する。

■ 株主に対して

- ・健全な経営を行い、株主の利益向上に努める。
- ・経営情報を適時適正に提供し、透明な経営を行う。

■ 競合事業者に対して

- ・信用毀損、不当廉売・談合等の市場競争を阻害するような行為を行わず、公正且つ自由な競争を行う。
- ・自社の知的財産権を保護するとともに第三者の知的財産権を尊重する。

■ 委託先に対して

- ・優越的地位を利用することなく、対等な立場で取引を行う。
- ・委託先との取引に適用する法令を遵守するとともに、委託先との契約に従う。

■ 政治行政に対して

- ・法令や社内規則に反する接待・贈答は慎むとともに、いかなる場合であっても贈賄行為に関与しない。汚職が疑われる行為も慎む。

■ 社会に対して

- ・ボランティア活動、地域交流などの社会貢献活動に積極的に取り組み、よき企業市民としての責務を果たす。
- ・文化・価値観の多様性を尊重するとともに、事業を行う国々の発展に貢献する。
- ・反社会的勢力との取引は一切行わない。

■ 環境に対して

- ・システム・ソリューションを社会に提案し環境負荷の削減に貢献する。
- ・事業活動によって生じる環境負荷の軽減に取り組む。
- ・生物多様性保全の意識を高め、自然環境保護活動に取り組む。
- ・環境関連法令等を遵守する。

■ 社員・協働者に対して

- ・一人ひとりの人格・個性を尊重する。
- ・人権を尊重し、性別、国籍、信条、宗教等による差別を行わない。
- ・ハラスメントを行わない。
- ・就業管理を適切に行い、過重労働・不払い残業の発生を抑止する。

■ 社員として

- ・情報セキュリティを確保するとともに、プライバシー侵害、不正アクセス等を行わない。
- ・会社の諸規程を遵守し、会社と利益が相反する行為や会社の負担で個人的利益を得る行為を行わない。
- ・インサイダー取引を行わない。
- ・取引先との間で社会的常識の範囲を超える接待贈答の授受を行わない。
- ・インターネット上のソーシャルメディアに対して、実名か匿名かを問わず、会社の機密情報や会社又は第三者の権利・信用を害するような情報を投稿してはならない。
- ・本グローバル・コンプライアンス・ポリシーの違反その他の不正行為を発見した場合は、速やかに上長又は組織長等に報告する。ただしそれに抛り難い場合にはホイットスラインへ通報することとし、会社は当該通報者に不利益が及ばないよう保護する。

NTTグループのCSR

■ NTTグループCSR憲章

近年、国連総会での「持続可能な開発目標（SDGs）」の採択や、COP21での「パリ協定」の採択など、地球規模での持続可能な社会への取り組みが強く要請されており、また株主・投資家をはじめとするステークホルダーの皆様からは、経営戦略とCSR戦略との連携が求められています。このような背景を踏まえ、2016年5月に「NTTグループCSR憲章」を改定しました。

NTTデータグループでは、この改定した「NTTグループCSR憲章」を踏まえ、引き続き自社の事業内容に沿ったCSR活動を推進しています。



■ CSR委員会

NTTグループでは2015年度から主要グループ8社のCSR最高責任者（副社長、常務取締役）を委員とした「グループCSR委員会」（委員長：NTT代表取締役副社長）を開催しており、NTTデータグループは本委員会への参加を通じて、NTTグループ全体におけるCSRマネジメント進展の一端を担いました。さらにNTTグループ主催の実務担当者によって構成される「グループCSR連絡会」へも定期的に参加し、グループ共通の課題や各社の優良事例を共有するとともに、新たに策定したCSR重点活動項目の実施状況のPDCAを相互に確認し合いながら、グループとして一体感のあるCSRを推進しています。

持続的な企業価値向上に向けて

NTTデータグループは、「Growth Drivers」「Profitability」そして「Sustainability」の3つの観点で、持続的な企業価値向上を目指していきます。



Growth Drivers

成長要因

海外売上高の拡大

当社は、2005年頃からグローバル展開を本格的に開始しました。2017年度には、連結売上高約2.1兆円のうち、海外売上高が9,000億円を超えるまでに成長しました。

今後も海外売上高の拡大が当社の成長の大きな原動力のひとつだと考えています。

ローカルプレゼンスの向上に向け、グローバルリナジー等を活かしたオーガニック成長やM&Aにより、海外売上高の拡大を目指します。

グローバルランキング



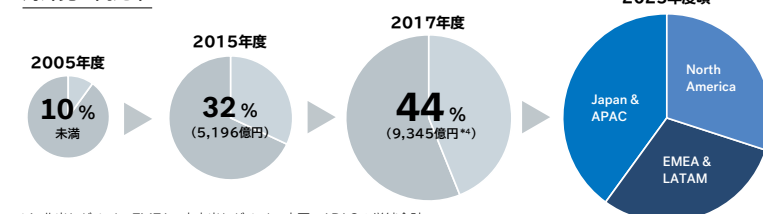
*1: Gartner "Market Share: IT Services, 2017" 11 June 2018

Based on vendor revenue
ここに述べられたガートナーのレポート（以下「ガートナーのレポート」）は、ガートナーの配信購読サービスの一部として顧客向けに発行されたリサーチ・オピニオンもしくは視点を表したものであり、事実を表現したものではありません。ガートナーの各レポートは、レポート発行時点における見解であり、この説明資料発行時点のものではありません。また、ガートナーのレポートで述べられた意見は、事前の予告なしに変更されることがあります。

*2: Gartner "Market Share: IT Services, 2017" 11 June 2018
Based on vendor revenue, 11カ国=米国・フランス・中国・カナダ・ドイツ・豪州・イタリア・ブラジル・オランダ・インド・シンガポール
ここに述べられたガートナーのレポート（以下「ガートナーのレポート」）は、ガートナーの配信購読サービスの一部として顧客向けに発行されたリサーチ・オピニオンもしくは視点を表したものであり、事実を表現したものではありません。ガートナーの各レポートは、レポート発行時点における見解であり、この説明資料発行時点のものではありません。また、ガートナーのレポートで述べられた意見は、事前の予告なしに変更されることがあります。

*3: 当社の目指す姿

海外売上高比率



*4: 北米セグメント、EMEA・中南米セグメント、中国・APACの単純合計

Profitability

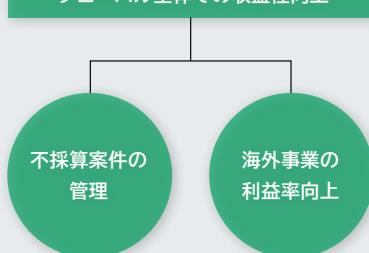
収益性

不採算案件の管理、海外事業の利益率向上

「Trusted Global Innovator」として企業価値を向上させていくためには、売上高の拡大だけでなく、収益性の向上に取り組むことが重要だと考えています。

そのために、グローバル全体で課題を整理し、収益性向上に取り組んでいきます。

グローバル全体での収益性向上



Sustainability

サステナビリティ

社会課題の解決を通じた成長

人財マネジメントや環境マネジメントなどのESGリスクの低減に加え、社会課題の解決に貢献する新たな「しくみ」をITを駆使して創造し、持続的な企業価値の向上を追求しています。

女性管理職者数



社員一人当たりの年間総労働時間の推移

